

平成23年9月

福井毅顕 学位論文審査要旨

主 査 長谷川 純 一
副主査 神 崎 晋
同 村 脇 義 和

主論文

The effects of olmesartan and alfacalcidol on renoprotection and klotho gene expression in 5/6 nephrectomized spontaneously hypertensive rats

(5/6腎摘高血圧ラットでのオルメサルタンとアルファカルシドールの腎保護効果および klotho遺伝子発現への影響)

(著者：福井毅顕、宗村千潮、前田佐登子、石田千尋、村脇義和)

平成23年 Yonago Acta medica 54巻 49頁～58頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は自然発症高血圧ラットの5/6腎摘を行った腎不全ラットモデルを用いて、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬であるオルメサルタンと活性化ビタミンD製剤であるアルファカルシドールと、これらの併用による腎保護効果とklotho遺伝子発現への影響について検討したものである。その結果、オルメサルタン投薬群、アルファカルシドール投薬群で血圧上昇抑制効果を認め、組織学的および血清学的に腎保護効果を認めた。さらに両薬剤併用群では顕著な降圧効果を認め腎保護効果も強く、5/6腎摘により低下していたklotho遺伝子の発現を改善していた。本論文の内容は、慢性腎不全に対し腎保護効果を有するとされるレニン-アンジオテンシン系抑制薬を用いても腎不全の進行抑制が不十分である場合に併用する薬剤として、アルファカルシドールが有用であることを示しており明らかに学術水準を高めたものと認める。